



青 於

3月号



お巡りさん・交通指導員さん・スクールガードの皆さんに感謝する会 (2/27)

雨が降る日も、雪が降る日も、朝早くから子どもたちが事故に遭わずに、毎日安全に登下校できるように、見守ってくれている皆さんへの感謝の会を開きました。「お巡りさんたちがいるから大丈夫だ」と安心しないで、「自分の命は自分で守る」ために、「飛び出し注意」「左右確認」をしっかりとってほしいと思います。また、2月14日から、登校班の班長に変わりました。責任ある仕事だと思いますが、登校班の人たちが交通事故に遭わないように、安全面の気配りをよろしくお願いします。



6年生は、大内西小の最高学年として、運動会や自然教室などの学校行事でリーダーシップを発揮してくれました。また、共遊や清掃などの日常生活においても、下級生の面倒をととてもよく見てくれました。まさに、「下級生のお手本となるような行動」をとってくれました。各学年から6年生に、心のこもった歌や手作りのプレゼントが贈られ、今まで大内西小をリードしてきてくれた6年生に対して、感謝の気持ちが伝わった会になりました。

6年生を送る会 (3/4)



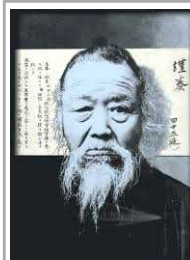
新しい1年生を迎える会 (3/5)

にしだ幼稚園年長児を招待して、交流会を開きました。1年生が、園児に音読劇「スイミー」や合奏「仔犬のマーチ」を披露したり、園児と「人間ボーリング」や「爆弾ゲーム」をして一緒に遊んだりしました。園児から、手や腕を使った遊びを教えてもらったり、歌を歌ってもらいました。最後に、1年生から「手作りのけん玉」、園児から「メダル」のプレゼントを交換をしました。



朝会の話(3/11)「足尾鉍毒事件」

この事件は、足尾銅山で起こった、日本で初めての公害事件です。足尾銅山は、明治時代、全国の半分近く（5分の2）の銅を生産していた日本有数の銅山でした。しかし、銅の精製で発生する有毒ガスによって森林が枯れ、有害な廃棄物が流出したことで洪水が起こり、渡良瀬川流域の土地には植物がまったく生えなくなりました。死んだ子どももたくさんいました。そんな状態を知った田中正造は、国に「足尾銅山を閉山して欲しい」と何度も頼みましたが、国はそれを無視し続けました。そこで正造は、死の覚悟で天皇に直訴しようと計画しましたが、途中で警官に取り押さえられてあえなく失敗しました。当時、天皇陛下への直訴は、重大な犯罪で死刑になることもありました。その後も、渡良瀬川はたびたび氾濫したので、国は、「谷中村」を水没させ、遊水池にすることで洪水だけは起きないように計画しました。そのときも、正造は、村人と一緒になって、肥沃な土壌をもつ村の水没に反対したが、またしても失敗しました。数年後、正造は鉍毒事件を解決できないまま、病気で亡くなってしまいますが、そのとき正造は一文無しでした。自分の財産の全てを、鉍毒事件のために使ったからです。だから、葬式のときの参列者は、5万人もいたと言われています。正造が活着しているときにできなかった環境問題は、正造を慕っていた人たちに引き継がれ、現在、足尾の山は、植林などをして昔のきれいな山に戻りつつあります。



真の文明は
山を荒らさず
川を荒らさず
村を破らず
人を殺さざるべし

卒業式 (3/19)

17名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、今、いろいろな夢をもっていると思います。その夢を実現させるためには、たくさんの試練を乗り越えなければなりません。夢の実現に向けて、失明しても日本に行くことをあきらめなかった『鑑真』のように「一念岩をも通す」の気持ちを忘れず、努力を続けて欲しいと思います。その気持ちをいつまでももち続けていれば、必ず夢は実現します。

